

# えぐね

「えぐね」は、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林です。快適な住環境を形づくり、日本の原風景を代表する景観を生み出しています。本校が胆沢の地や人々にとってなくてはならない「えぐね」のような存在であり続けたいと願い、校報の名前にしています。

## 冬休みを迎えて

終業式で話したことのひとつです。

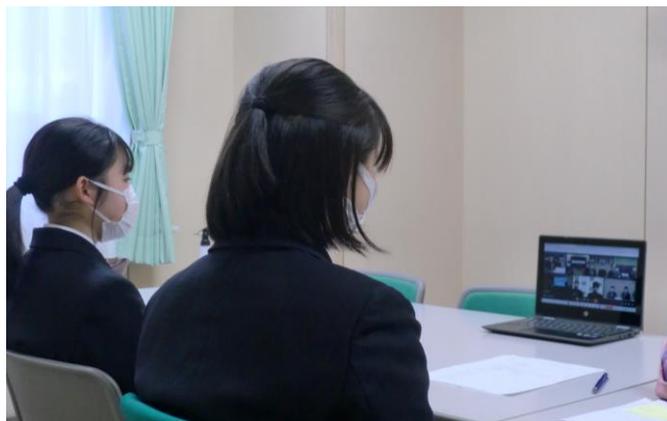
「学校の冬休みは年末年始を挟みます。そうでない仕事もあるのですが、働いているお家の方の多くの仕事が休みになります。そのため、中学生の休みと重なり、他の長期休みに比べて一緒に過ごせる時間も多くなるはずです。また、年末年始は、普段会えない家族や親戚と連絡をとったり、話をする機会も増えるものです。こうした機会を利用して、普段思っても話せていないことや、聞いてみたいことを伝える時間をもつのもよいと思います。こうしたことを含め、普段できないことに取り組むことも、冬休みのめあてにしてほしいと思います。」

家族との暮らしの中で、思い出に残る時間を大切にしてほしいと思っています。

## 中生連オンライン会議

13日に、今年度2回目となる、胆江地区の中学校生徒会連合会の交流会が、各中学校を

オンライン形式で開かれました。本校からは、第7期執行部から代表の生徒が参加しました。



会議では、最近の各校生徒会の活動に基づいた報告や交流が行われました。ICT技術の活用で、今までにない取組も当たり前のように中学校の中に入ってきています。

## あいさつ運動



1・2年生の学年委員会が共同であいさつ運動に取り組んでいます。胆沢プライドとし

での「あいさつの定着」と、学年を超えた「縦のつながりを深めること」を目的とした活動です。あいさつ励行を呼びかける取組を続けながら、活動の振り返りに3年生からの評価を聞く機会を設けたり、調査にタブレット端末のアンケート集計機能を利用するなど工夫した実践を進めています。

## 消防庁長官賞 受賞

山火事予防ポスター原画の部で佐々木美月さんの作品が全国的な評価を得て、消防庁長官賞を受賞しました。おめでとうございます。

## 「勉強」と「学び」

「勉強」は受動的で、与えられたものをこなす作業であり、「学び」は能動的でどんなことでも自分の中に取り入れることとしているものと説明しているものが散見されます。

私には、「勉強」は行うことが求められるのに対して、「学び」は好きなことをとどまることなく続けるイメージが浮かんできます。

現在、中学生にはどちらも求められるようになっていきます。両方を大切に、自分の豊かさにつなげてほしいものです。

## 対人トラブルのきっかけ3/4

実際の会話、SNS上でのやりとりのどち

らでも誤解が生じることがあります。

例 A「この前、思ったんだけど、日本全国に河童っているよね」

B「何ですか、河童は妖怪、伝説の類です。存在確認されていないものを…」

語句がその文章の中でどんな意味合いで使われているかをつかめていない場合です。全体の意味ではなく言葉の一部が独り歩きしてトラブルになることがあります。

ニュアンスを感じ取ったり、聞き合うことは常に意識したいところです

## 高1調査④ 「夕食」

夕食を食べているか	
食べる	96.5%
食べないことがある	2.3%

帰宅後に夕食以外に食べたり飲んだりするか	
お菓子を食べる	69.8%
氷菓子を食べる	66.4%
飲料を飲む	77.9%
炭酸飲料を飲む	51.6%
果物を食べる	42.6%
ご飯・パン・麺類を食べる	40.5%

帰宅後の夕食以外の飲食（間食や夜食）は、運動や勉強で疲れた時に気持ちをリラックスさせる効果がある一方、量やタイミングは工夫する必要があります。

栄養成分表示にあるエネルギー量はどのくらいか、胃腸への影響を考えた時に消化の良いものかどうかなどです。